

つばさだより 10月号

港区適応指導教室
「つばさ教室」
令和6年10月1日発行



(住所) 港区虎ノ門3-6-9 (電話) 03-5422-1548
(HPアドレス) <http://tsubasa.minato-ky.ed.jp/>



季節の移り変わりと新たな一歩

「暑さ寒さも彼岸まで」と言うように、朝夕は過ごしやすくなり、虫の声が秋の訪れを感じさせてくれます。私たち一人ひとりもまた、季節が移り替わるように少しずつ変化し、前へ進んでいくことが大切なのかもしれません。

今年度は、年度の切り替わりに合わせて登校に一步踏み出す児童・生徒が増え、1学期のつばさ教室は閑散としていましたが、夏休み後、2学期が始まると見学や相談が増え、それに伴い登室する児童・生徒も増加しています。9月18日には、14名が教室で学習に取り組んでいました。今年度の特徴としては、小学生の登室が増えている点が挙げられます。統計では学年が上がるにつれて不登校の児童・生徒は増加する傾向が見られますが、今年度のつばさ教室では、小学生の保護者からの問い合わせや相談が増え、それに伴い、小学生の登室が増加傾向にあります。



今学期に入ってから新しい仲間も加わり、休み時間には子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿も増えてきました。教室内は活気を取り戻し、日々の交流の中で自信を取り戻していく様子がかげえまです。学校に行けなくなった児童・生徒がつばさ教室の扉をたたくことは、非常に大きな勇気が必要です。その勇気を持って一步を踏み出したこと自体が、彼らにとって大きな成長の一歩です。季節が少しずつ移り変わるように、日々の小さな変化も、前向きに積み重ねていくことで、やがて大きな成果となって返ってくるものです。

つばさ教室では、その勇気を振り絞った児童・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、それぞれのペースで再び学べる環境を提供しています。スタッフ一同、これからも温かいサポートを続け、教室が誰にとっても安心できる場所であり続けるよう努力してまいります。今後も見学やご相談がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。どんな小さな一歩も、私たちはしっかりと支えていきます。

----- 10月の予定 -----



外国語活動 11:00~12:00	10月 2日(水)、 9日(水)、16日(水)、23日(水)、30日(水)
体育活動 14:00~15:00	10月 1日(火)、 3日(木)、 8日(火)、10日(木)、15日(火) 17日(木)、22日(火)、24日(木)、29日(火)、31日(木)
ハンドベル演奏会	10月23日 13時~14時 Kiss ポート ティンカーベルによる演奏会を行います。

高校の先生の話聞く会

9月18日(水)に六本木高校の松本治子校長先生、世田谷泉高校の沖山栄一校長先生をお招きして「高校の先生の話聞く会」を開催しました。今年度は、同じチャレンジスクールでも違いがあることを知ってもらうために2校のチャレンジスクールの校長先生にいらしていただきました。お話の概要を掲載いたします。進路選択の参考にしてください。

【六本木高校】

チャレンジスクール制度と六本木高校の特徴、カリキュラム、支援体制、進路実績などについて詳しく説明していただきました。

六本木高校は、不登校経験者や中途退学経験者を多く受け入れており、生徒一人ひとりに合わせた柔軟な時間割の作成や、ステップ広場やスクーリングなどの様々な支援制度を用意しています。六本木高校は、生徒が社会に出て自立できる人材を育成することを最も重視しており、教室復帰を最終目標としながらも、多様な学習機会と支援体制を提供することで、一人ひとりの生徒の卒業を全力でサポートしています。



<チャレンジスクールの概要説明>

チャレンジスクールとは、定時制の3部制と単位制総合学科の学校のことを指し、不登校経験者や中途退学経験者が自分の目標に向かってチャレンジする学校です。入学選抜は学力検査はなく、志願書と作文、面接の総合点で判断されます。普通科目に加えて、専門科目や総合科目から自由に選択できる点が特徴的です。



<六本木高校の特徴>

六本木高校は、都内で最も設置講座数が多く、100以上の講座を開設しています。芸術カルチャー系、生活サービス系、情報サイエンス系の3系列があり、系列に関係なく自由に選択できます。海洋エコリズムや日本探訪など、実践的な体験型の講座も用意されています。時間割作成の自由度が非常に高く、1日の授業時間数や曜日を自由に設定できる点が大きな特徴です。

また、アルバイトやボランティア、検定試験の単位認定制度も整備されています。

<教育相談体制と支援制度>

六本木高校では、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、精神科医、大学院生などの専門家を配置し、きめ細かい教育相談体制を整えています。不登校支援のため、NPO 法人が運営するステップ広場では、宿題のサポートや学習の場を提供しています。ステップ広場での学習成果を単位認定する制度や、通信制の単位認定制度も用意されており、最終的には教室復帰を目指しながらも、多様な支援を行っています。

<学校行事と部活動、進路支援>

六本木高校の三大大行事は、スポーツフェスティバル、きらら祭、学習成果発表会です。部活動は3つまで加入可能で、昼休みや放課後に活動します。進路学習では独自の進路ノートを活用し、面談や行事を通して進路意識を高めていきます。大学や専門学校への進学が多い傾向にあります。

【世田谷泉高校】

不登校経験者や発達障害のある生徒など、従来の一斉指導では対応が難しい生徒に対して、合理的配慮を行い誰一人取り残さない教育を目指していることを強調しました。

具体的には、オンライン授業の導入、通信制教育の活用、個別学習支援の充実、多様な居場所作りなどの取り組みを紹介しました。また、入学者の100%を不登校経験者にすることを目標に掲げ、作文と面接での評価方法の工夫や、中学校への働きかけなどを行っています。最後に、不登校は人生を諦める理由にはならず、希望を持って進路を選択することが大切であると呼びかけてくださいました。



＜世田谷泉高校の特色＞

世田谷泉高校は、チャレンジスクールの中で最も不登校経験者の割合が高い高校を目指しており、入学者の100%を不登校経験者にすることを目標としています。そのた

め、作文と面接の評価方法を工夫し、中学校にも不登校経験者の進学を促すよう働きかけています。



＜不登校経験者への支援＞

不登校経験者や発達障害のある生徒に対して、合理的配慮を行い誰一人取り残さない教育を目指しています。具体的には、オンライン授業の導入、通信制教育の活用、個別学習支援の充実、多様な居場所作りなどの取り組みを紹介しました。

また、東京都が提供する様々な支援プログラムの活用や、専門家との連携による支援体制の構築にも力を入れています。

＜卒業に向けた取り組み＞

不登校の生徒でも卒業を目指せるよう、様々な工夫をしています。具体的には、必修科目の単位認定方法の見直し、半年ごとの学習計画の策定、アルバイトなどの社会体験の単位認定など、柔軟な対応を行っています。また、生徒一人ひとりのニーズに合わせた支援を行うため、個別面談や専門家との連携を重視しています。

＜メッセージ＞

最後に、校長先生は「不登校は人生を諦める理由にはならず、希望を持って進路を選択することが大切である」と呼びかけました。また、チャレンジスクールだけでなく、様々な選択肢があることを伝え、自分に合った学び方を見つけることを勧めてくださいました。

校長先生に直接説明していただきました。つばき教室の生徒たちにとってはとても貴重な体験だったと思います。

自分の進路です。今日の話聞く会を参考にして、自分に合った進路を見つけてください。

